

GOVERNOR's Monthly Letter

ガバナーズ マンスリー レター

D2580
ガバナー月信

2

FEBRUARY 2020 Vol.8

発行

国際ロータリー 第2580地区 ガバナー事務所

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-11-8 全医協連会館1階
TEL: 03-3538-0211 FAX: 03-3538-0212
E-mail: office@rid2580.org URL: https://www.rid2580.org/



2月は、「平和構築と紛争予防」月間です

国際ロータリー第2580地区

2019-20年度ガバナー

新本 博司

今年度、私が掲げたテーマは「奉仕の実践 / 平和で明るい未来」です。1月中旬には昨年私もそうしたように、野生司ガバナーエレクトがご夫妻で国際協議会（アメリカ・サンディエゴ）に行かれて、2020-21年度の年次目標やテーマを聞いてきました。そして3月17日の会長エレクト研修セミナーで地区の年次目標を発表することになります。次年度に向けた研修が始まりますが、皆様には今年度の年次目標を忘れることなく、2020年6月30日の年度末まで引き続き執行願いたいと存じます。

2月11日から13日にかけて、沖縄で地区大会が開かれます（ホストクラブ：那覇南RC）。特に今年は、11日に付随行事の「ロータリーデー」が開催され、12日のプログラムの中には「平和フォーラム」も組み込まれました。多くの皆様の参加を、お願いいたします。

1月のRI会長からのメッセージを、ウェブサイトや『ロータリーの友』でお読みになりましたか？私が常々申し上げている、平和は何も国際平和だけではなく、家庭の平和も大事だと申し上げていることに通じるころがあったと思いますので、あえてここでもう一度取り上げます。ガバナー月信1月号では、RIの職業奉仕に対するスタンスについて取り上げましたが、マローニー会長がここで職業奉仕を非常に大事に考えていることも、お分か



青少年交換派遣国決定通知授与

りになるでしょう。

「世界中の人びとが、さまざまな理由でロータリーに入会します。「ロータリーはキャリアに大きなプラスとなる」という、私と同じ理由で、毎年多くの新しいロータリアンが入会しています。アラバマ州で新人弁護士としてスタートを切ったとき、私は妻のガイとともに義父の弁護士事務所のパートナーになりました。ロータリーに入れば、人脈を築くことができ、職業上求められる以上に廉直な価値観を掲げている真摯な職業人だということを潜在顧客に示すことができる、ということを義父に教えられました。

ロータリーの職業奉仕は、事業や職業におけるもっとも厳格な倫理基準、あらゆる有用な職業の尊重、そしてロータリアン一人ひとりの職業を社会に奉仕する機会として重んじる心に基づいています。最後の点は非常に重要です。どんな職業であっても、誠実に、常に四つのテストに従って働けば、誰もが世界に大きく貢献できるのです。

私は会長として、職業人としての生活、家庭人としての

生活と、ロータリー活動のバランスをとることを優先事項に挙げています。ボランティアの役職として必要とされる以上の時間を割かねばならないというプレッシャーをロータリアンが感じることはありません。これにはいくつか理由がありますが、そのひとつは、ロータリーでは、職業人として行う活動も、ロータリーとして行う活動と同じく重要だからです。私たちがいつでもどこにいても、ロータリーの理念は私たちとともにあります。そして、職業上の成功は、職場で働く毎日の中でロータリーの素晴らしさを伝えるものとなるのです。

これは特に、若い人びとをロータリーにいざなう上で大きな意味があります。よいロータリアンであることと、よい親であること、よい事業家であること、よい管理職であること、よい従業員であること。そのいずれかを選ばなければならないようなことのないロータリーをつくりたいのです。多忙な若い世代に入会を求める際、時間や自由を犠牲にすることを求めてはなりません。ロータリーでの活動は、彼らがすでにしていることが、より一層意味深いものとなるような体験であるべきです。

よりバランスの取れたロータリーには、ほかの利点もあります。ほかのロータリアンやローターアクターが、プロジェクトや委員会でリーダー職を引きうける機会が生まれます。クラブ活動に積極的に参加するようになり、一生ロータリアンであり続けるインスピレーションが得られます。

職業奉仕、および職業上の人間関係の中で私たちが実践する伝統的価値観により、ロータリーは世界中で尊敬を集めています。ロータリーの成長を促す中で、入会見込者への一番のセールスポイントは職業奉仕であることを忘れてはなりません。

ロータリーは世界をつなぎます。そして、ロータリーの職業奉仕をより多くの業種の、よりさまざまなライフステージにある人びとに知らせることで、ロータリーはさらに成長し、より強く、多様になっていくのです。」

青少年交換委員会主催「懇親会」の報告

12月22日に、青少年交換委員会が第56期派遣学生に対して派遣先の発表を行いました。第2580地区では、派遣学生を地区内高校から公募し、採用後に世界中と交渉の上、派遣先を決定します。他地区では、本人が希望する国の地区と交渉するところもありますが、当地区では学生自身が派遣先を選べません。派遣先を宣告された学生達は、中には驚き、悲しむこともあるでしょうが、一年間の留学生生活を過ごした後は、第二の母国となって帰って来ます。文化や言語が違うので、もちろん皆苦しみますが、それもまたこの活動の素晴らしい一面でもあります。その経験を生かして、後進の指導に当たれるからです。小さな親善大使とし、世界に高校生を送り出す事業ですが、グローバルな考え方をを持った若者を育てる重要な奉仕活動です。派遣生達は7月から8月に渡航し、翌年の6月から7月に帰国します。そして9月に帰国報告会を行います。多くの学友が、将来ローターアクターとなります。またその後、ロータリアンになった方も大勢いらっしゃいます。私は、今年派遣する学生の認定を昨年9月に行い、12月に派遣先を認定いたしました。彼らが来年どこまで成長して帰って来てくれるか、楽しみにしています。

帰国した日本人学生は、大学等に進学し、後進の指導に当たります。これが青少年交換学友（通称 ローテックス）です。ジュニアカウンセラーと共に、来日生や派遣生のお世話をします。彼らが奉仕することを助けることも、この事業の目的です。ローテックスは学業の傍ら、後進への奉仕をし、その活動費は補助金だけでは賄えないために、自らアルバイトなどをしてこの活動に参加します。12月22日の懇親会では、来日生や派遣予定学生が作ったケーキをオークションにかけて、参加者が競り落とした金額が全てローテックス活動費となるイベントが行われました。

青少年交換プログラムは、来日生を迎えるクラブにとっても、日本と違った文化や言語で育った学生を受け入れることにより、世界を学ぶ事業となります。日本に来

る学生達も、文化や言語の違いに悩みます。来日生に日本文化を伝えるだけではなく、我々も海外の違った風習などを受け容れる良い機会になります。世界平和のためには、お互いを理解するだけでなく、お互いを尊重し合うことが必要です。来日生は約1年間を日本で過ごし、帰国前の報告会(次回は6月21日)で日本語のスピーチをします。彼らの成長を見るのも楽しみにしています。帰国報告会も、帰国前報告会も、本当に感動的なスピーチを聞くことができます。この活動への理解のためにも、多くのロータリアンの参加をお願いいたします。

クラブ公式訪問の報告(12月4日~25日分)

いよいよ私の公式訪問も70クラブを終え、終盤を迎えつつあります。幾つかのクラブ訪問の際にご紹介した、ポール・ハリスの言葉を皆様に贈りたいと思います。

『私の七十余年の人生で、大切なものが二つあります。一つは故郷ニューイングランドの谷間、もう一つはロータリー運動です。「ロータリーが現在のような世界的な親睦団体になるとは思わなかったろう。君が思っていたより立派になったね。」とよく言われますが、誠にごもつともです。最初はどんな方角に進むのかわかりませんでした。ところが、私がロータリーに身を捧げるようになった源を探っていくと、谷あいの故郷、村人の人情や宗教や政治に対するおおらかな心づかいにまで遡ります。そんな訳で、バーモントで過ごした私の少年時代のことを皆さんにお話ししたいのです。

ニューイングランドの人々、山々、そして谷間についての私の知識は大体において、一少年の目を見たものです。少年は勿論私で、あれから随分長い年月がたっていて、今の私には、少年時代の私はまるで別人のように思えます。しかし、私はその少年を良く知っています。またその少年を大人に育てた少年の夢、秘密、失敗談や色々のいたずらも良く覚えています。その中には恥の上塗りがあったり、美しい自然への愛や、暖かい老祖父母への愛情で美化されている話もあります。

山には靈感を求めに行く人、休みに行く人などがいます。学者は山を論じ、詩人は歌い、画家は絵にします。そして、子供は山に登ります。山は子供が元気な足で登るためにあるのではないのでしょうか。山が高くて、子供は意気揚々としていました。山は子供が征服するものです。子供は元気はつらつ、胸を張って生きている喜びにひたっていました。子供は万物の王ですが、残念なことに大人になってしまうのです。子供は大人の父であると言われますが、誰でも大人になると、子供時代がなつかしくなるものです。「三つ子の魂百までも」と言うではありませんか。

本書の著者は少年時代に得た教訓を非常にありがたく思っています。それは田園生活を愛すること、厳格なニューイングランドの家庭のしつけ、教育の重要性、そして高邁なる理想に貢献することでした。少年時代にはまた宗教や政治的信条に寛容であること、人の意見はどんな意見でも耳を傾けること、近隣愛、友人愛や人々との交友は大きな喜びであることも学びました。しかし、せっかく習った教えを自分のものにするまでには相当時間がかかりました。大人になった私は快楽に夢中でした。しかし、ついに、少年時代の教訓に悟りを開いて、それを世界に広めようと一生懸命努力するようになったことは嬉しいことです。

ロータリーとは何か。百人百様の答えをしていますが、ロータリーが何かであるより、ロータリーは何をしているのかを語る方が簡単です。最近こんなことを言った人がいます。「◎もしも、ロータリーが人間とか人生というものを、一層温かい目で眺めるように我々を導いてくれるなら、◎もしも、ロータリーがお互いの長所をみとめるために我々がより一層寛容で熱意を持つように教えてくれるなら、◎もしも、ロータリーが人生の楽しさと美しさを発見して、それを広めようとしている同志相互の親善の場であるならば、ロータリーは我々の望みをすべてかなえてくれている。

1945年10月 シカゴにて ポール・ハリス』

(出典:『ロータリーへの道』国際ロータリー第2790地区成田ロータリークラブ発行 pp.10-11)

12月4日は、**石垣RC**を訪問しました。離島で、島には1クラブしかいないため、他クラブの例会を訪問することでの欠席のメイクアップが難しく、出席率の課題（現状60%前後）があるとのこと。ロータリークラブ定款の第10条第1節(d)(3)に“次のような方法で同じ年度に欠席をメイクアップする：理事会承認のクラブの奉仕プロジェクトまたはクラブが提唱した地域社会の行事や会合に出席すること。”と明記されております。クラブが奉仕活動を計画と実践し、例会以外にメイクアップの機会を提供するというのはいかがでしょうか？そうすれば奉仕の実践にも繋がります。次年度創立60周年を迎えることもあり、ローターアクトについても、将来のロータリアン育成に繋げていく為にも検討をお願いしたいところです。海外事業へは積極的な参画があり、バギオ・カンボジア等への参加協力実績があるとのことでした。八重山と台湾のつながりについての特別事業を行なった例を、協議会で説明を受けましたし、国際奉仕では、台湾の姉妹クラブ・友好クラブとの交流促進をしてお聞きしました。石垣島の御嶽等の歴史認識を充実させる取り組みを行なっているそうですが、公共イメージ向上についてもHP、SNS、Facebook等の活用に取り組んでいらっしゃいます。米山奨学金については離島ゆえ意識が低いので、それを改善する為意識改革に取り組んでいるとのこと、宜しくお願いします。

12月5日は**コザRC**を訪問しました。会員数が一時期は20名を切るところまで減少したが、今年度は28名まで盛り返してきています。女性会員は2名で、まだまだロータリーの認知度が低いので、努力していきたいそうです。今年度の会長テーマは、楽しいRCを目指して、着座を変更しざっばらんに話ができる、卓話、プログラムの見直し、帰りに楽しかったと思ってもらえる例会を実現したいとのこと。奉仕活動は、国際カーニバル、美里児童園の支援、コザの街中イベント（ゴーヤーの日）、こどもの国の支援ですが、これから新たに図書館への本の寄贈、市内循環バスに屋根付きバス停を設置、商店街の町おこしを加えていく予定とのこと。再来年はコザ

ロータリー60周年祭を検討中です。各委員長とも工夫を凝らしていると感じました。



12月16日は、**那覇南RC**を訪問しました。会員数が20名強の決して大きなクラブではないにも関わらず、地区大会のホストクラブと青少年交換来日学生のホストクラブという大きい事業が重なり、大変な状況ですが、地区大会も他クラブの応援を得て着々と準備を進めていただいていることを感謝いたします。

公式訪問では、クラブが一体となって活性化を図り、ロータリーに入ってよかったと思える状況を作る意気込みが感じられました。クラブ協議会の活動計画書も、しっかり作り込まれていました。会員増強に関してもクラブ全体で取り組もうと努力されていますが、高齢化しており退会した方もいます。事業承継と同時に会員の引継ぎもお願いしたいところです。例会出席の回数は、月2回にしたり、週1回に戻したり、工夫をいらっしゃいます。ロータリーを通じて真の友人ができる、親睦を図る、という事が、ロータリーの魅力の一つではないでしょうか。那覇南RCは魅力あるクラブだと思います。子供食堂への支援などもしていらっしゃいます。

12月17日は、**宮古島RC**を訪問しました。宮古島RCは会員数22名のクラブです。若い会員が多いのであまり性急に仕事を押し付けず、時間を掛けて育てていきたいとのことでした。私からは、年間活動計画・事業計画書の作成についても、アドバイスいたしました。

クラブ協議会では、若い会員のために研修会等に積極的に参加させたいと考えているものの、本土どころか本島への参加でも日程的に厳しいものがあるという問

題や、例会卓話を充実させていきたいとお話が出ました。子供食堂への支援をしたことで、大人の引きこもり問題についても関心が高まったそうです。親睦・出席委員会は、川崎北RC、藤枝RCとの交流をしていて、石垣RCとの定期的な交流を計画中です。



12月18日は昼に**宜野湾RC**を、夜に**名護RC**を訪問しました。**宜野湾RC**は、訪問時の会員数36名で、全会員がクラブ協議会にも参加してくださいました。会長のスローガンである、出合いを大切にという事はとてもいい言葉であると思います。

グローバル補助金についての話題が出ました。ロータリーの活動をクラブが発信するには、地域のニーズを捉え、他団体と連携して地域の課題解決に取り組むことが大事です。一方で、国際的な活動にも手を伸ばしていくという事も大事です。奉仕を実践していく事で、さらに地域に認知され、逆に地域から要望をうけるという事にも繋がる。そうやって進めていくと、マスコミなどにも取り上げられ、公共イメージが浸透し、結果として会員拡大にもつながっていくと思います。

恒久平和を願う等い思いを込めて、オオゴマダラの放蝶を行っているお話を聞きました。環境美化も含めて地域が明るくなる事業なので、ぜひ引き続き行って欲しいと思います。また、電光掲示板にポリオ、米山などの奉仕活動情報を電光掲示板に掲示して、公共イメージの向上に貢献しているお話を聞きました。FacebookなどのSNSも積極的に活用しています。

名護RCは、外へのアピール、公共イメージ向上に問題があると認識されていました。会長からは、会員増

強と平和への貢献が課題である旨の認識が示され、事業承継の問題では親がロータリーで活躍する背中を子に見せる形にしていきたいとお話がありました。

名護市役所前のロータリー花壇の整備、NAGO ハーフマラソンの給水ボランティア、名護桜の会への協力、苗木の植樹、やんばる(沖縄県国頭地区)における国際交流活動の支援、外国人による日本語弁論大会の後援、第39回北部地区中学校新人野球大会の開催等を行っていると聞きました。野球大会の参加は15校ですが、39回を迎える中でOBはプロ野球選手や沖縄尚学高校野球部監督になったりしています。



12月19日には、**那覇北RC**を訪問しました。10周年を迎え、今年は4名増強されて30名強となっています。平均年齢が比較的若く、まとまっているので「あうんの呼吸」で活動できている様に感じました。クラブのコミュニケーションはSNSを活用し、週報では会員の近況報告など、会員の親睦を深めることに努力しています。10周年行事に向けて会員結束して準備をおこない成功させていきたい、との意気込みをお聞きしました。

提唱する沖縄高専インターアクトクラブは、辺野古地区の海のクリーンアップを行っており、那覇北ローターアクトクラブは、学校法人石川学園で活動を行ったり、歯科衛生士の専門学校で職場体験歯科ボランティアをしたり活動に励んでいるとの報告を受けました。

12月25日には、**東京豊島東RC**を訪問しました。明るい挨拶と笑顔が絶えない例会と会員同士が敬意を

払い尊重し合っている、品格のある大人の雰囲気を誇るクラブです。34年目を迎えるクラブですが、クラブ活性化を図るために、委員会数を14から9に絞り込み、例会数を月2回から3回に増やし、例会時間を15分間延長する、温泉・ダンス同好会を新設するなど、会員満足度を向上させる施策を採っておられます。会長年度方針は、『世界で良いことをしよう』です。思春期セミナーと題して現役のレディースクリニック医師による、女性の抱える身体の悩みや病気を理解してもらう場を提供したり、地区補助金を利用してひとり親世帯の入学生へ制服の寄贈を計画したりなさっているとの報告もありました。

公共イメージ向上委員会からは、訪問当日に台湾からの支援金を福島民友を通して、福島へ寄付し、翌日の朝刊に掲載される予定だとお聞きしました。クラブの情報交換をLINEグループで行うなど、IT化も図られている様です。



会員数報告

2019年7月1日クラブ数	71RC
2019年7月1日正会員数	2,990名
(内女性)	202名
2019年12月末日正会員数	3,005名
(内女性)	211名
会員増減数	15名
入会者数	120名
退会者数	105名

※詳細は地区ウェブサイト「[会員数](#)」のページをご覧ください

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

5回	加藤 幸男 (東京練馬西)	戸塚誠一郎 (東京江北)
4回	鈴木 義雄 (東京東江戸川)	垣見 裕司 (東京紀尾井町)
3回	高橋 一輔 (東京練馬西)	山本 辰人 (東京練馬西)
2回	松村 敏夫 (東京練馬西)	中川 照詞 (東京東江戸川)
1回	榎本 孝之 (東京練馬西)	鈴木 義一 (東京練馬西)
	鈴木 義一 (東京練馬西)	鹿野 寿満 (東京東江戸川)

ポール・ハリス・フェロー

岡村 利之 (東京東江戸川)	田中 保夫 (東京東江戸川)
鹿倉 勇 (東京東江戸川)	唐澤 正樹 (東京東江戸川)
岩倉 孝雄 (東京東江戸川)	田邊 軌夫 (東京武蔵野中央)

米山功労者・メジャードナー

53回	依田 巽 (東京)
12回	小川 明治 (東京王子)
10回	仲本 清弘 (那覇東)

米山功労者・マルチプル

8回	内田 昌之 (東京練馬西)	高橋 榮治 (東京武蔵野中央)
6回	半澤 二也 (東京練馬中央)	
5回	金丸 精孝 (東京紀尾井町)	武藤 正 (東京紀尾井町)
3回	手島 京子 (東京紀尾井町)	
2回	榎本 孝之 (東京練馬西)	

米山功労者

堀内 雅史 (東京紀尾井町)	谷井 玲 (東京紀尾井町)
小林 康和 (東京紀尾井町)	江口 英彦 (東京紀尾井町)
中村 啓之 (東京王子)	

12月31日分まで 敬称略、順不同

編集者:遠山 明良 2019-20年度地区副幹事 東京ロータリークラブ所属

【哀悼】 謹んで哀悼の意を表します



東京向島ロータリークラブ

片山 裕之(かたやま ひろゆき)会員

逝去日 2019年12月25日 享年89

入会日 1969年12月3日

NPO法人ピーアイエイジャパン 理事長

ポールハリス・フェロー

準米山功労者